

# そよかぜ

SOYOKAZE

## 男性職場？女性職場？もう古いですよ **PART 2**

昨年（2018年3月15日）発行のそよかぜ第8号では、「女性の活躍」をテーマに、男性の割合が多い職業で活躍している女性にスポットをあてました。

近年、女性の活躍が増える中、女性の割合が多く占める職業で活躍している男性も増えており、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会に一步步進んでいます。

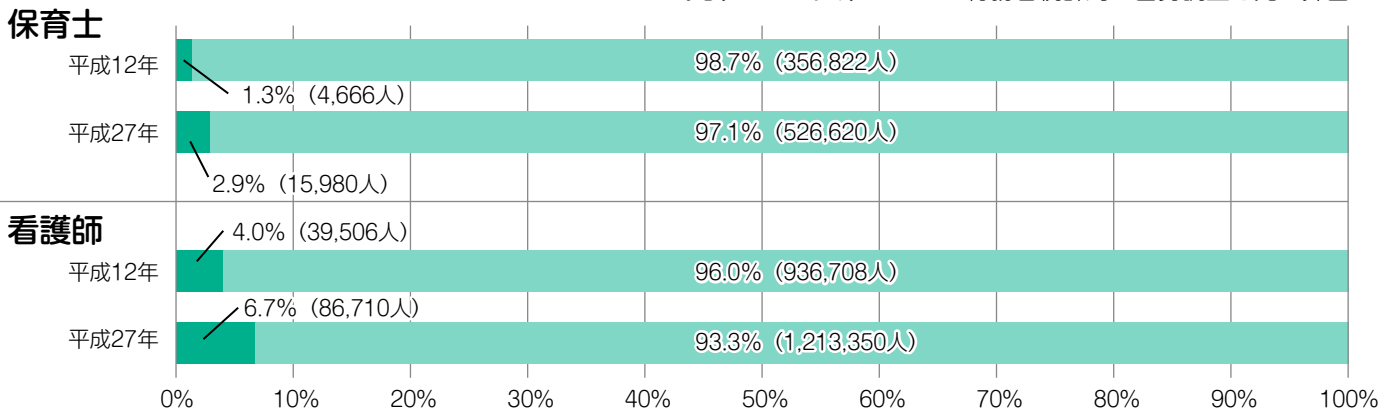
そこで、今回は『男性職場？女性職場？もう古いですよ PART 2』と題し、女性が多く占める保育と看護の現場で活躍されている男性お二人にお話を伺いました。



### 保育士、看護師の男女割合

■ 男性 ■ 女性

※総務省統計局の国勢調査を元に算出



保育士、看護師とも男性の割合は少ない職業ですが、平成12年と平成27年を比べると男性の保育士の人数は3倍以上、男性の看護師の人数も2倍以上に増加しています。

※男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として、互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、家庭や地域、職場などのあらゆる分野において、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会のことです。





久喜市立あおば保育園 副園長  
 さやま だいすけ  
 佐山 大輔 さん

平成16年に保育士として久喜市に採用。  
 平成29年よりあおば保育園副園長を務める。  
 子ども達とのふれあいだけでなく、入所希望の見学者や保護者への対応、職員の勤務管理、園の環境整備や経理事務、職員のフォローなど園の運営における庶務全般を担う。

## 保育士には子どもの成長が見られる喜びがあります

### ★今の仕事に就いたきっかけ★

保育士だった母の姿を小さい時から見ているうちに、私も子どもが好きになり、子ども達と遊び、笑顔になってもらうことに喜びを感じていました。高校卒業後に、海外留学で出会った子ども達の素直さに魅せられ、「子どもと関わる仕事がしたい」と思うようになりました。

資格を持っていなかったことや、当時まだまだ男性保育士が少なかったこともあり、進路に迷い、一度は一般企業に就職しましたが、相手を喜ばせたいという純粋な気持ちとギャップを感じる中で、やはり保育の仕事に就きたいと思うようになりました。その後、相談した友人の後押しと両親の応援もあって、勤めていた会社を退職し、地元の保育大学校で保育士の資格を取得しました。

### ★保育士という仕事にたいして★

保育大学校の入学式では、女性が圧倒的に多く、正直不安を感じました。しかし、社会人としての経験を活かし、リーダーシップを取って行動するうちに自然と環境にも慣れました。そのため、実際に保育士になってから、女性が多いという理由で不安を感じたことはありませんでした。ただ、私が保育士になったばかりの頃は、勤めていた保育園に男性用トイレや着替えの場所がなく、トイレで着替えたり、自分なりに工夫しました。

保育には正解がないため、思うようにいかなかったり、悩むこともあります。なにより子どもの成長が見られる喜びがあります。卒園児から「佐山先生！」と声をかけてもらうと、子ども達の心の中に自分のことが刻まれているのだなと嬉しく感じます。

### ★今後の夢は★

子どもが好きで保育士になったので、家庭と仕事の両立を目指していきたいです。家庭では良きパパであり、職場では後輩や保護者の皆様、まわりの方々から信頼される保育士でありたいと思います。男性保育士は市内公立保育園



でまだ3人しかいません。自分ももっと力をつけて実績を積み、どこへ行っても恥ずかしくないような存在となり、その姿を見て、ついてきてくれる保育士が一人でも増えてくれたら良いなというのが私の願いです。

あおば保育園では、園長・副園長含め11名の正規職員と16名の臨時職員等が、月曜日から土曜日まで交代で勤務しており、お互い協力しながら保育にあたっています。園長、副園長は園の管理運営が主な業務ですが、保育士や園児の状態に応じて、クラスに入ることもあります。



子ども達の保育だけでなく、園で使用する備品を運んだり、力仕事もたくさんあります。

### ★後輩のみなさんへ★

保育の現場では男性保育士の力を必要としている場面も多くあります。しかし、男性だから、女性だからというのではなく、それぞれの得意な部分で不得意なところを補い合っていけるのがこの職場です。

また、幅広い視野を持ち、私のようにいろいろな経験をするのも良いと思います。そして、自分の力を発揮できる場所を見つけたら、強い意志を持って、その目標に向かって取り組んでみましょう。



## 卓越した技術と医療知識が 認定看護師のモットーです

### ★今の仕事に就いたきっかけ★

就職を考えた時、営業や事務職は自分には向いていないかなと思っていました。姉が看護師で、看護に関する資料を目にしていたのですが、私が高校生の頃は、若い男性看護師の割合は特に少なかったです。

しかし、元々人と違ったことをしたいという自分の性格もあり、次第に看護師という仕事に惹かれていきました。家族も、看護師は手に職が付き、ずっと続けられる仕事ということで賛成してくれました。



また、地元の高校では、医療の道を目指す友人も多かったため、周囲にも自然と受け入れられました。

### ★看護師という仕事にたいして★

看護師は、患者さんが元気になって「ありがとう」と感謝された時にやりがいを感じる職業というイメージがあるかもしれません。

しかし、私の勤務しているICUは、「心臓が動いているか・呼吸はしているか・自分の脳で考えることは出来るか」といった、人間の根幹を管理する部署であり、患者さんが言葉を発することはもちろん、意思表示をすること自体非常に困難です。

そのため、自分の看護観から考え直す必要があり、若い看護師の中には悩みやストレスを抱える者もいます。こうした相談にのり、スタッフをフォローするとともに、ICUでの業務にやりがいとプライドを持って取り組むことをしっかり意識づけしていくことも認定看護師の使命です。

緊張感の多い仕事なので、プライベートでは同郷の看護師仲間と食事をして、リフレッシュしています。



### ★今後の夢は★

大学に入り、診療看護師の資格取得を目指したいと考えています。診療看護師とは看護職でありながら、特定の医療行為を行うことが出来る資格です。

私は長崎県の離島の出身です。島には総合病院が2つありますが、常勤の医師が少ないため十分な医療行為を行うことが出来ない医療過疎地です。

将来は、診療看護師として地元の医療の充実に努めていきたいと考えています。



### 新久喜総合病院 重症集中ケア認定看護師 ※ICU主任

しらかわ ひろひと  
白川 大仁 さん

平成14年に看護師として徳島県の病院に勤務。

平成28年より新久喜総合病院のICUへ配属。

卓越した技術と医療知識をモットーに『臨床・教育・相談』を使命感として掲げる。水準の高い看護を実践するとともに、他の看護師に対し看護実践を通して指導や相談も行っている。

※ICUとは、重症患者の特殊治療施設で、集中治療室とも呼ばれています。

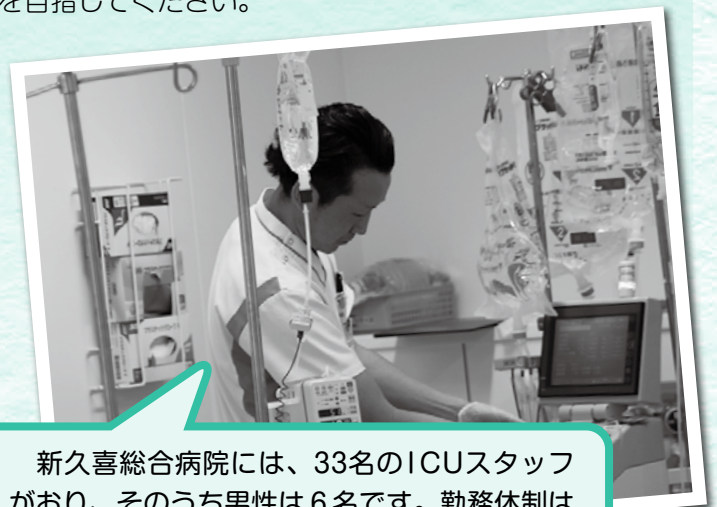


### ★後輩のみなさんへ★

看護師は、まだまだ男性が少ないという現状がありますが、男性にしか出来ないことや男性だからこそ気づいてあげられるという点もあると思います。

患者さんに一番近い存在として、治療に導くのが看護師の役目です。私はスタンダードな人生よりも、日々勉強し、悩むこの仕事にこそやりがいを感じています。

「自分の仕事にプライドを持って仕事をしたい」、「向上心を持てる仕事がしたい」と考えている人は、ぜひ看護師を目指してください。



新久喜総合病院には、33名のICUスタッフがあり、そのうち男性は6名です。勤務体制は日勤と夜勤の2交代制で、原則1人のスタッフが2人の患者さんを担当しています。

対応にあたっては、周囲のスタッフの意見を聞いてアドバイスを受けることが大切です。

「アライ」とは、同盟・協力といった意味を持つ英語のAlliance（アライアンス）からきた言葉で、LGBTを含む性的マイノリティについて正しく理解し、支援・応援する人々を指して使われています。

具体的な表明や活動をしていなくても、

- ・性的マイノリティの学習会に参加し、理解を深める。
- ・身近な人からセクシュアリティを打ち明けられたとき、寄り添って話を聞いてあげる。

このようなことも、アライとしての立派なアクションになります。

誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向け、一人ひとりが性の多様性を尊重し、互いの価値観や生き方を認め合う意識を持つことが大切です。

正しい認識を持つことがアライへの第1歩です



## 女性の悩み(カウンセリング)相談

お子さんやご家族、ご夫婦に関すること、配偶者等からの暴力に関すること、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について、お気軽にご相談ください。相談の費用は無料です。また、相談に関する秘密は固く守ります。

**相談日程** 第1・第3金曜日 13時～17時  
面接相談もしくは電話相談

**相談会場** 久喜市役所（本庁舎）

**相談時間** 1人50分

**対象** 市内在住・在勤・在学の女性

**相談員** 女性カウンセラー（臨床心理士）

**申込方法** 相談は予約制です。電話または窓口で人権推進課（下記連絡先）までお申し込みください。

※相談日程・会場について、詳しくは人権推進課までお問合せいただくか、広報くきをご覧ください。

## ひとひと 女と男いきいきネットワーク久喜 会員募集します

私たちは久喜市内で活動する団体及び個人が、ゆるやかにつながり、互いに交流し、情報交換しながら、男女共同参画の推進に取り組んでいます。久喜市との共催で「男と女のつどい」や「女性議会」を開催したり、毎年2月に行われる「With Youさいたまフェスティバル」での活動展示などを行っています。皆様のご加入をお待ちしています。

**申し込み・問合せ** 同団体会長 内海まで

**電話/FAX** 0480(21)8825

## そよかぜの編集員を募集します！

「そよかぜ」は、市民の編集員により企画・編集されています。男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙をつくってみませんか。月1回程度、編集会議を行っています。

**募集人数** 5人

**応募方法** 人権推進課までお問い合わせください。

久喜市は、お互いを認め合える社会を築くため、「人間尊重・平和都市」を宣言しました

## 編集後記

女性が多数を占めている職場にも、本誌の題名が示すような「そよかぜ」が吹き始めていると感じました。日本では労働者人口そのものが減少に向かっていますが、この新しい風の流れは止めないでほしいと思います。

（岡安 一雄）

今回取材したお二人は、共に、人と密接に関わるお仕事の方でした。「相手は『人』、こちらの男性女性は関係ない」「互いに協力し補い合うことが大切」という言葉に、男女共同参画の正しい意味を教えられた気がします。

（杉原 範子）

長い時間をかけ男女間の囲いが取り払われた今、「本当に自分は何がしたいのだろう」真摯に自己と向き合い、行動し、今後の未来図を描くお2人に乾杯。後に続く若者がこの地を潤し、手を携え羽ばたきますように。

（佐藤 怜子）

今回も、自分のやりたいことを、あきらめずに求め、極めていらっしゃるお二人でした。男女関係なく、それぞれの職場で、一人の人間として、自分の個性を發揮していくことが何よりも大切なことを改めて感じました。

（菱沼 千恵子）

男女共同参画情報紙「そよかぜ」のバックナンバーは、久喜市ホームページからご覧いただけます。

### ◆発行/久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3

電話：0480-22-1111（内線2322） FAX：0480-22-3319 メールアドレス：jinken@city.kuki.lg.jp

この情報紙は61,000部作成し、1部あたりの単価は3.3円です。

